

# 国東中央公民館だより

発行 国東中央公民館  
館長 岐部

## 地区文化祭の開催

### ○上国崎公民館～「ふるさとあらたに祭り」

2月26日(日)10時より地区公民館と見地公民館で開催されました。地区公民館では、神楽公演・オコスンジャー(テレビでも話題になった)による怪談話と一座による歌謡ショーが行われました。またバザー・フリーマーケット会場では、タコ飯・赤飯も販売され、来場者に好評でした。また、この日にあわせ「あらたにカフェ」も開催時間の10時から15時までオープンして、おいしいコーヒーやジュースが無料でふるまわれました。

見地公民館では、地区民の方が日ごろから熱心に取り組んだ多くの作品が展示され、参観者から称賛を受けていました。旧上国崎小学校体育館が老朽化したため、会場を2カ所の分ける工夫をしながら取り組まれ、野田館長をはじめ関係者の皆さんの熱意を強く感じました。



野田館長の挨拶で始まりました。



会場前のバザーには多くの来場者



神楽公演も好評でした。



素晴らしい作品に見とれました。

### ○豊崎地区公民館～地区総合文化祭

上国崎地区と同じ26日(日)に、旧豊崎小学校体育館で地区総合文化祭が開催されました。コロナの関係で今年度も展示中心の文化祭となりましたが、この日を待ち望んだ方々がたくさん来場されました。会場内では、コーヒーカフェ・青空市場・フリーマーケットも開かれ、地区民の交流で皆さんの表情も明るく、元気をもらいました。

また、会場内ではストラックアウトなどの簡単なゲームを楽しめるコーナーも準備していました。コロナ禍での工夫した文化祭でした。



多くの作品が展示されました。



おいしいコーヒーを楽しみました。



青空市場での買い物も魅力でした。



的に当てるストラックアウトコーナー

## しめ縄づくりにチャレンジ!

富来地区公民館 12月8日(木)

昨年度は門松づくりにチャレンジしましたが、今年度はしめ縄づくりを開催いたしました。地区からたくさんの方が参加し、熱心に講習を受

けていました。それぞれの自宅や公民館に手づくりのしめ縄が飾られることを願って、参加者の皆さんは意欲的に指導を受けていました。講師には、旭日地区公民館の山本館長をむかえて行いました。

正月の準備に向けてとても役立つ貴重な講座で、皆さんも楽しく取り組むことができました。今後も継続できることを願っています。

また、富来地区館では毎年「ぬり絵コンテスト」も計画し、希望者に配布して、3月には展示会を行う予定です。毎年すばらしいぬり絵作品を見ることができます。ぜひ地区館にいらしてください。



沢山の方が参加しました。



講師の山本さんを紹介



皆さん、器用に仕上がっています。



見事に完成しました!

## 「地域力を高める公民館活性化モデル事業」

来浦地区公民館

毎年、地域コミュニティの拠点としての公民館活性化のあり方についてモデル公民館を設定し、その成果を周知する県公民館連合会の事業に、今年度来浦地区公民館が応募され実践を行いました。この報告は、別府地区公民館連合会研修会でも橋本館長が発表いたしました。(以下、要点のみ紹介)

「学びあい」「かかわりあい」「みつめあう」公民館活動を目指してをテーマに、3つの努力目標を設定。①学習成果の地域還元を奨励、住民の持っている知識・技能・経験・情報が集まって来る拠点としての公民館づくり。②地域内にいる多彩な人材を活用し、自立した公民館活動とその活性化。③公民館活動へ参画する年代が高齢者に偏っている傾向にあるため、青年層や壮年層が参画しやすい学習や活動の実現。

この3つの目標に留意した活動を展開することは、「地域力を担う人材育成」にも繋がる。人材育成は、「地域力を高める」原動力である。

### この努力目標①に呼応した事業～「絵手紙交流活動」

受講生15名以内(実際は10人参加)、計5回の教室開催(5～7月間)。毎回テーマにそった作品をつくり、互いに見合う場が交流の機会となり有益であった。教室終了後、成果の還元の間として区内の「はるかぜ」を訪問して、作品をプレゼントする小さな地域貢献に繋がった。

### ②に呼応した事業～「陶芸教室交流活動」

地元の人材活用として地域に居住する陶芸家夫妻を講師に招聘し、9～10月の2回開催。場所は夫妻の作業室で行い、参加者は用具に制限があるため8名とした。11月には出来上がった作品を持ち寄り、地元の茶話会グループとタイアップし、創作活動の魅力等の意見交換会を実施した。(↓研修会で発表する橋本館長 生涯学習フェスタに作品展示↓)



別府地区公民館連合研修会では、各地区の活動について情報交換を行い、午後は現地研修で「富来の歴史探訪」を実施。富来城跡や羽田遺跡など国東の文化や魅力を発信する活動を報告しました。

# コロナ禍でのリーダー研修

## 全国公民館研究集会鹿児島大会を視聴

3年ぶりに、高齢者学級運営委員を中心に開催  
アストマルチホールで、12月ビデオによる研修

コロナの影響で予定より2カ月ほど遅れて、地区公民館長・主事及び高齢者学級運営委員を対象に、リーダー研修会を開催しました。コロナ禍でここ二年間中断していましたが、今回の動画配信を知り感染者が減少した12月6日（火）に研修会として視聴しました。内容は、地域の課題でもある第三分科会「高齢社会への対応」に絞りました。

1本目は、福岡県岡垣町の「自分磨き」を目的とした公民館講座から「社会貢献」にステップする講座づくりの報告がなされました。しかし、その大半が自分磨きの目的で受講しており、社会貢献までアップするにはまだハードルが高く、その手だての改善が課題でした。

2本目は、鹿児島県鹿屋市の「高齢化社会に対応した公民館活動」を視聴しました。高齢者大学の受講生と地域の中学3年生との交流を実践していて、学校のカリキュラムにも位置づけ、生き方や考え方を伝える場となっていました。また、公民館活動の中に学校応援団活動があり、校内の緑化活動や伝統踊りの継承等を支援していました。双方の発表とも今後一層求められる活動であり、過疎の進む地域においては学校と地域との支え合いもより必要になると感じました。

今回のリーダー研修では、各地区館との連携の大切さ、高齢者の自覚を高める高齢者学級づくり、若い人でも気軽に参加できる講座づくり等を通して、地域の交流を高め、地域の良さを発信していける公民館活動の実践を学ぶ場となりました。



(大きなスクリーンで研修 ↑)



### 高齢者学級臨時講座 (前号の続き)

## 「安岐町の魅力再発見」 12月2日

前回は、諸田山神社、御田植祭伝承館、新築された安岐中央公民館ホールの見学と安岐地区の公民館の取り組みを紹介しました。今回はその後の探訪内容を紹介致します。

次に向かったのは、そらにわの丘・安岐城です。そらにはの丘は、まちづくり推進課が始めた分譲地で、全28区画(60~99坪)となっています。若者の定住を目的に造成され、すぐ傍に安岐小学校、市民病院もあり、眺望もすばらしい場所にあります。すでに数棟が新築中であり、新たなまちづくりに参加者は期待をよせていました。



(↑バスの窓から新築がみえます)

そらにわの丘から3分程で、最後の行程になる安岐城を訪れました。国道の傍に大きな看板と堀の跡が見られます。

では、安岐城の歴史を少し紹介します。

応永年間(1394~1428年)に大友氏の一族田原氏が安岐郷に入り、防備よりも政治の場としての陣屋を構えたとされる。田原氏は7代当主親幸の時に本丸のみを築城(1407年)。親幸は1431年周防の大内氏との戦に出陣し、筑前で戦死する。

### ■1回目の落城~田原氏の滅亡

12代親宏には男子がなく女子2人いるが、長女は秋月種実に嫁いでいる。大友宗麟は、自分の子どもを養子にさせ田原家を継ぐように考えたが、親宏は反発し豊前の馬ヶ岳城長野種信の子親貫を次女お鶴の養子に迎える。宗麟は反発し悩んだ親宏は病死する。親貫が13代目となるが、さらに宗麟は国東郷を取り上げ、宗麟の次男に親家に田原を名乗らせる。1580年反旗を翻した親貫は、毛利輝元・小早川隆景・秋月種実に援軍を依頼し、毛利の水軍が安岐浦で、浦部水軍の若林鎮興らに撃退される。宗麟自らもこの戦いに出陣し親家と共に9ヶ月にわたり戦い安岐城は落城する。親貫は豊前善光寺に逃れるが追っ手により戦死する。

親貫を追ってお鶴も城を抜け出すが、塩屋の西荒巻の民家に隠れたところを見つかり、惨殺される(姫ガ墓)。安岐小学校東方にこの戦いの犠牲者を埋葬した墳墓がある。その後村人が碑をたて、明治には堂宇を建立した(千人塚)。ここに田原氏の嫡流は断絶する

### ■2回目の落城~大友氏の没落

田原氏滅亡後、宗麟は親家に田原家を名乗らせ安岐城に入城する。文禄の役(朝鮮出兵)が起きると、親家も大友義統の軍に加わり出陣する。義統は小西軍の窮地に援軍を出さなかったことにより秀吉の怒りに触れ領地(32万石)を失い、安岐城も没収される。親家は立花家に預けられ、1609年細川家の家臣となり(100石)利根川通孝と改名する。子孫は、細川氏の直臣となり松野氏を名乗る。

### ■3回目の落城~大友氏の滅亡

大友氏より領地没収した秀吉は、1594年秀吉7人衆の家臣に分割する。安岐城主には美濃国塩津城主熊谷直陳(なおつら)が1万5千石に任じられる。直陳は近江国に2万石の領地があるため、叔父の熊谷外記を城代とし安岐城を全面的に改修して、二の丸や三の丸を築く。

1600年(慶長5年)関ヶ原の戦いの年、豊後では所領復活を企てた石田側の太田義統と徳川方の黒田官兵衛が対立。石垣原で勝利した黒田軍は9月19日安岐城を包囲し外記は自害する。姫は小城方面に逃れるが殺害されてしまう。姫の墓は安岐城を向いて建てられている。安岐城は廃城となり、約190年間の幕をとじる。

その後、寛永年間(1620年代)小笠原侯(杵築城主)により入植者たちの手で開墾され、古城村となる。今でも堀の跡がはっきりと見受けられ、本丸の跡には碑が建てられている。



堀のそばの土塁は、神社の参道になっています。



鳥居をくぐると天守台の跡が見られます。



階段の先が天守台で、今は神社が建てられています。



神社の周りは深い堀ですが、竹やぶでよく見えません。

### 中央公民館の活動紹介

### くにさき少年少女発明クラブ

「モデルロケットを飛ばそう」市内の小学生4~6年生対象に毎年募集して、発明作品づくりや理科的な体験活動を毎月1回実施しています。今年もコロナの影響で開講が8月に延期されましたが、2月講座ではロケットをつくり国東小学校のグラウンドで、全員のロケットが打ち上げに成功しました。

